

知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議

カムイワッカ部会（第23回）議事録

日時：2026年1月14日（水） 14：30～16：30

場所：斜里町産業会館 大ホール

議事：

1. 2025年度の事業実施結果について
2. 道道知床公園線における工事の進捗とゲート設置について
3. 2026年度事業の実施方針
4. カムイワッカ地区の利用のあり方と今後の協議予定について
5. その他

配布資料：

資料1-1 2025年度カムイワッカ地区の運用状況と各事業の実施結果

資料1-2 2025年度事業決算（見込み）

資料2-1 道道知床公園線における工事の進捗について

資料2-2 硫黄山登山道の利用について

資料2-3 羅臼岳登山道ヒグマ人身事故を受けた対策の検討状況

資料3 2026年度事業の実施方針について

資料4 カムイワッカ部会のあり方と今後の協議予定

参考資料1 カムイワッカ湯ノ滝のぼり パンフレット

参考資料2 カムイワッカ湯ノ滝のぼり アンケート結果について

参考資料3 カムイワッカ駐車場における混雑予測と渋滞シミュレーション

参考資料4 2026年度 祝休日カレンダー

参考資料5 カムイワッカ部会設置要領

参考資料6 第22回カムイワッカ部会 議事録

出席者名簿

機 関 名	職 名	氏 名
【地域関係団体】 10 名		
知床自然保護協会	理事	綾野 雄次
斜里山岳会	事務局長	笠井 文考
羅臼山岳会		欠席
北見地区バス協会 斜里バス株式会社	代表取締役	下山 誠
株式会社斜里ハイヤー		欠席
NPO 法人 知床斜里町観光協会	事務局長	新村 武志
知床温泉旅館協同組合	組合長	桑島 大介
ウトロ自治会		欠席
知床ガイド協議会	会長	岡崎 義昭
一般財団法人 自然公園財団 知床支部	副所長	向山 純平
株式会社ユートピア知床		欠席
ウトロ地域協議会	事務局	渡邊 誠
公益財団法人 知床財団	事務局長	玉置 創司
公益財団法人 知床財団 保護管理事業係	係長	金川 晃大
【関係行政機関】 0 名		
国土交通省 北海道開発局 網走開発建設部 技術管理課		欠席
北海道運輸局 北見運輸支局		欠席
北海道警察 北見方面斜里警察署 地域交通課		欠席

機 関 名	職 名	氏 名
【事務局】 18 名		
環境省 ウトロ自然保護官事務所	首席国立公園 保護管理企画官	二神 紀彦
環境省 ウトロ自然保護官事務所	国立公園利用 企画官	伊藤 薫
林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署	署長	山之内 弘幸
林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署	総括地域林政調整官	清水 亜広
林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター		欠席
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部用地管理室維持管理 課	維持管理課長	井浦 秀俊
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部用地管理室維持管理 課	道路管理係長	佐々木 賢一
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部事業室道路課	道路課長	小林 勝博
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部事業室道路課	主査(道路)	菅原 明
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部事業室事業課	道路係長	中橋 友博
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部事業室事業課	技師	鶴田 将也
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部斜里出張所	所長	松田 泰滋
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部斜里出張所	主査(管理調整)	松本 陽一
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部斜里出張所	主査(維持)	飛弾野 智也
北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 環境生活課 知床分室	主幹(知床遺産)	三井 義也
斜里町役場 総務部 環境課	課長	塩 幸也
斜里町役場 総務部 環境課 自然環境係	係長	吉田 貴裕
斜里町役場 産業部 商工観光課	課長	南出 康弘
斜里町役場 産業部 商工観光課 観光係	係長	岩渕 聖也
【運営補助】 4 名		
公益財団法人 知床財団 調査研究室	参事 (公園事業推進 PL)	秋葉 圭太
公益財団法人 知床財団 企画総務部 普及企画係	係長	萱野 真未
公益財団法人 知床財団 企画総務部 普及企画係	係員	米田 紗衣
公益財団法人 知床財団 企画総務部 普及企画係	係員	松田 隆聖

【開会あいさつ】

環境省（伊藤）：開会に先立ち事務連絡を申し上げる。本会議は公開での実施であり、発言は記録し、後日議事録として Web サイトで公開する。発言の際はマイクを使用し、所属と氏名を述べていただくようお願い申し上げます。本会議は 16：30 の終了を予定している。配布資料の確認は割愛するが、不備があれば事務局へ申し出ていただきたい。開会に先立ち事務局を代表し、環境省ウトロ自然保護官事務所二神より挨拶申し上げます。

環境省（二神）：本日はお忙しい中、参集いただき感謝申し上げます。カムイワッカ部会はカムイワッカ地区を中心とした事業のあり方について、自然環境の保全と安全で質の高い利用の両立を図るため、関係機関が継続的に議論を積み重ねる重要な場となっている。昨年度の部会では 2021 年から 2024 年に渡り実施してきたカムイワッカ湯の滝利活用検討事業や調査事業を総括し、カムイワッカ湯の滝利活用促進事業として本年から 3 か年を第 1 フェーズと位置付けた新たな事業計画の了承を頂いている。

本日の部会では、第 1 フェーズの 1 年目である 2025 年度の事業実施結果の確認に加え、道路工事やゲートの設置の進捗、2026 年度の事業実施方針、そしてカムイワッカ地区の今後の利用のあり方と協議の進め方について議論を行う。ヒグマ対策を含む安全管理の考え方についても、カムイワッカ地区の特徴を踏まえながら丁寧に意見交換を深めたいと考えている。なお、昨年に発生した羅臼岳登山道におけるヒグマの人身事故は、知床における自然利用の安全確保について、改めて重い課題を私たちに突きつけるものとなった。現在、関係機関において事故を踏まえた対策の検討が進められており、本日の議事でも検討状況について報告をいただく。本日の議論が知床の自然の価値を将来に引き継ぎ、持続可能な利用の実現に繋がることを期待している。皆様の忌憚のない意見を願います。

環境省（伊藤）：それでは議事に移る。司会進行は斜里町役場環境課の塩課長に願います。

【議事】

1. 2025 年度の事業実施結果について

資料 1-1 について斜里町(岩渕)が説明

参考資料 2 について知床財団(秋葉)が説明

斜里町（塩）：資料 1-1、及び参考資料の内容について質問、意見はあるか。

一同：（質疑無し）

斜里町（塩）：質問がなければ、続いて資料 1-2 について説明させていただく。

資料 1-2 について斜里町(岩渕)が説明

斜里町（塩）：資料 1-2 の内容について質問、意見はあるか。

一同：（質疑無し）

斜里町（塩）：異議なしのため、議事 1 についてこの場の全体の確認と承認を得たとする。

2. 道道知床公園線における工事の進捗とゲート設置について

資料 2-1 について網走建設管理部（菅原）が説明

斜里町（塩）：資料 2-1 の説明について皆様からご意見、質問はあるか。

知床財団（玉置）：落石の対策工事について感謝申し上げます。今後の予定であるが、将来的には知床大橋まで通行可能となるのか。それとも現状のゲート位置から延伸予定はないのか。

建設管理部（菅原）：現状のゲート位置から知床大橋までの区間についても落石対策が必要であり、具体的な工事の予定については現段階では未定である。

知床財団（玉置）：時期はともかく知床大橋まで落石対策を行い、開放する方針という理解でよろしいか。

建設管理部（菅原）：その認識で間違いない。

斜里町（塩）：他に意見がなければ資料の説明を続ける。

資料 2-2 について知床分室（三井）が説明

資料 2-3 について斜里町（塩）が説明

斜里町（塩）：資料 2-2 の説明についてご意見、質問はあるか。

斜里山岳会（笠井）：道道の延伸は登山者に対して有益な情報であり感謝申し上げます。資料 2-2 の駐車スペースの案についての決定はいつになるのか。また、駐車を遠慮いただきたい場所への注意看板設置などの対応は検討しているのか。

知床分室（三井）：資料 2-2 については調整済みであり、この場で異論がなければ決定とし、詳細な運用方法については追って確定させたい。今後ホームページ等で情報発信していく。また、道路管理の立場からは駐車場ではなく退避場であるため、道路管理者側では駐車場看板の設置予定はないが、道路の通行を妨げない範囲で待避場や路肩の空きスペースを一般利用することは可能という整理になっている。

斜里町山岳会（笠井）：ご意向は理解した。工事関係者等に支障がある場所へ駐車されてしまう恐れもあるため、誘導や案内の掲示等は必要である。今年度までの登山者向けの駐車スペースには案内掲示があった。これを新規の駐車スペースに移動する考えはあるのか。

環境省（伊藤）：確認し併せて協議を行う。

斜里町（塩）：他にご意見、質問はあるか。

斜里町（塩）：質問がなければ、続いて資料 2-3 の説明について皆様からご意見、質問はあるか。

知床自然保護協会（綾野）：7 回実施したヒグマ対策連絡会議の概要を教えてください。

斜里町（塩）：概要については資料の記載通りである。詳細な議事内容については不確定要素もあるため、この場では回答しかねる。

知床自然保護協会（綾野）：遊覧船事故の際、ガイドが集められ安全対策について行政から注意を促された。それに対しガイド側からは、ガイドツアーより一般利用者の安全対策の方がより重要だと意見を述べたが、こうした観点での検討は行われていたのか。

斜里町（塩）：ご指摘の内容に特化したわけではないが、対策においては一般利用者への情報提供を柱として対策を練っているところである。

斜里町（塩）：その他、資料 2 の内容について質問、意見はあるか。

一同：（質疑無し）

斜里町（塩）：異議なしとし、議事２について全体の確認と承認を得たものとする。

3. 2026 年度以降の事業の実施方針について

資料３について斜里町（岩渕）、斜里町（吉田）、環境省（伊藤）がそれぞれ説明
参考資料３について知床財団（秋葉）が説明

斜里町（塩）：ここで一度休憩を挟み、15：25 より議事を再開する。

<休憩>

斜里町（塩）：資料３について内容が多いため、分けて質疑を受ける。まず、資料２ページまでのカムイワッカ湯の滝事業の内容について皆様からご意見、質問はあるか。

ウトロ協議会（渡邊）：3 点質問がある。1 点目は料金体系のあり方について、支出の削減が必要との記載がある。安全性を確保しながらプロモーション等も行う方向性だと理解したが、具体的に削減する費目について伺いたい。

斜里町（岩渕）：前提として、今期の予算を作成する際に既にかなり削減した経緯があり、ここからさらに削減するのは難しいのが実情だ。来期の予算策定にあたっては、安全とサービス向上のため、補助員を増やしたり、更衣室を増やしたりする費用の計上を見込んでいたが、これらを見送り、精査しなければならないと考えている。

ウトロ協議会（渡邊）：今後取組みたいが厳しいという現状は理解できた。今後、収支を安定させるために具体的な削減を見込む費目について教えていただきたい。

斜里町（岩渕）：具体的に申し上げますと、マイカー規制期間に行っている知床五湖の駐車場誘導警備業務などは、今後、五湖駐車場の管理者（自然公園財団）が実施する予定であり、カムイワッカ協議会として費用負担はなくなる予定だ。他にも事務費等について見直しを行っている。

ウトロ協議会（渡邊）：2 点目の質問として、今期の決算では積立金や繰越金は 0 円になっており計上されていない。今後、将来的に基金のような形で余剰資金を積み立てる予定はあるのか。

斜里町（岩渕）：今回の値上げを踏まえ、収支が黒字となった場合は基金に再度積立てる予定だ。現状としては 7,000 人を超える利用があった場合は黒字となる想定である。

ウトロ協議会（渡邊）：3 点目の質問として、協力金の値上げについて、ガイドツアーの大人の値上がり率が最も高いことが気になる。事務局としてはなるべくガイドに引率して欲しい考えだと理解している。値上げの考え方を教えていただきたい。

斜里町（岩渕）：ガイド利用の方がより安全性が高まるため推奨している。全体的に3割の値上げとし、端数は切り上げ処理をした。ガイドの協力金の値上げ率が高い理由は、こうした端数処理の結果だ。改めて事務局で検討したい。

斜里町（塩）：他にご意見、質問はあるか。

旅館組合（桑島）：収支の安定化のために協力金を上げるという観点からは、子供料金が安すぎるのではないかと。宿泊費の観点からは大人料金と比べ、子供料金は70%や50%くらいの相場である。カムイワッカは世界的にも稀な観光地であるので、料金的にはまだまだ安いと考えている。また、利益を見込める期間は連休やお盆等となるので、協力金を一律で扱うのではなく、ダイナミックプライシングを取り入れることも視野に入れるべきだと考える。

斜里町（岩渕）：事務局としても様々なパターンを検討しており、ご指摘のように8月に大幅に価格を上げる検討もしていたところだ。アンケート調査や他地域の事例調査の結果などからも協力金に値上げの余地はあるものと理解している。一方、大幅な値上げにより利用者が減る可能性も考慮した。第1フェーズでは事業を安定化させる、赤字を出さないことを主眼とした設定としたい。第2フェーズについては、様々な投資に向けた戦略的な協力金の見直しも必要と考えている。

斜里町（塩）：他にご意見、質問はあるか。

知床財団（金川）：中長期的な質問になるが、収支のバランス改善に向けた考え方として値上げを検討されているとのことだが、利用者数を伸ばすという考え方も重要だ。一方で、利用者が増加した場合、現地の駐車場や管理施設の対応キャパシティの課題が出てくるであろう。この点について将来的な見通しはあるか。

斜里町（岩渕）：利用者数については現状最大で1日210人と利用を制限しており、この利用形態の場合は年間約20,000人までは対応可能である。前年度の利用者数が7,500人、今年度が6,500人の現状では余裕があると考えている。値上げとは別に利用者数を増やす取組みも必要と考えており、本来ではプロモーション等をもっと行っていきたいが、予算的には厳しい状況である。メディアの活用もしながら利用者数を増やしたい。

知床財団（金川）：ポテンシャルの高い観光コンテンツであるので、プロモーション次第で利用者数は大きく変わるはずだ。一方で、シャトルバス運行時期以外では二次交通が不足しており、交通弱者をまだまだ受け入れられていないことも、今後検討の必要がある。

斜里町（塩）：他にご意見、質問はあるか。

斜里山岳会（笠井）：現地の運用について、今年度はヒグマが出没した場合に終日利用中止という運用を行っていたが、カムイワッカ地区はヒグマが当然のように存在している場所である。大型連休があっても今年度のように終日利用中止が続くと収支の安定化を見込めるはずもない。今年度と変わらない運用を続けていくのか。それとも柔軟な運用にしていけるのか。

斜里町（岩渕）：現時点では具体的な案はない。カムイワッカ湯ノ滝のぼりは、予約制というところがあり、利用再開時の予約者への連絡や、ヒグマが滞留傾向にある場合の開閉のタイミングが難しい。登山道事故の影響もあり、今年度はヒグマの出没があった時点で終日利用中止という判断とせざるを得なかった。今年度の運用は暫定的なルールと考えている。

斜里山岳会（笠井）：次年度に関しては、今年度の運用を踏まえて検討をしていくという認識でよいのか。

斜里町（岩渕）：その通りである。事務局等で検討させていただく。

斜里町（塩）：質問がなければ、続いてマイカー規制についての質疑に移る。資料3の3ページについて皆様からご意見、質問はあるか。

一同：（質疑無し）

斜里町（塩）：質疑は無いため、事務局としては基本的に案②の8日間の実施で進めさせていただきたい。斜里バスの下山社長からご意見等あればお願いしたい。

斜里バス（下山）：支出を抑える面では案②が良いと考える。

斜里町（塩）：案②が妥当とご意見を頂いた。他にご意見あるか。

一同：（質疑無し）

斜里町（塩）：ご意見等ないため、バス事業については案②で決定したい。

斜里町（塩）：資料3の4ページについて皆様からご意見、質問はあるか。

一同：（質疑無し）

斜里町（塩）：異議なしのため、議事3については以上とし、全体の確認と承認を得たものとする。

4. カムイワッカ地区の利用のあり方と今後の協議予定について

資料4について環境省（伊藤）が説明

斜里町（塩）：資料4の説明について皆様からご意見、質問はあるか。

知床財団（玉置）：親会への提案は賛成だ。交通課題に関しては国立公園の中で出てくるものであり、ある程度大きな形で効果を発揮していかないと運営が回っていかない。斜里町単体では難しい点もあるため様々な視点で検討していく必要がある。現時点では案2（エコツアー検討会議の下にアクセスモビリティをテーマとした新規部会を設置）が良いと思われる。親会への提案は間髪入れず、スピード感をもって動くべきだと考えている。

斜里町（塩）：他のご質問、ご意見はあるか。カムイワッカ部会のあり方についてご提起になるのでご意見いただければ幸いだ。

一同：（質疑無し）

斜里町（塩）：異議なしのため、議事4についてこの場の全体の確認と承認を得たとする。

5. その他

斜里町（塩）：事務局からは特にないが、皆様からはご意見等あるか。

知床財団（金川）：今後の部会のあり方について、現状でもさまざまな部会や協議会がある中、最終的に国立公園のあり方を議論する場合はエコツーリズム検討会議と理解しているが、今後は会議体が乱立している状況の改善に加え、安全対策やアクセス等の横断課題を横串で取り扱う場を新たに創設する考え方もある必要である。親会に部会の再編を提案するにあたっては、こうした横断課題の取り扱いについても検討いただきたい。

環境省（伊藤）：協議の話題とさせていただく。

斜里町（塩）：そのほか、皆様からご意見、質問はあるか。

網走南部森林管理署（山之内）：カムイワッカ部会の中で合意形成や承認のプロセスがあるが、当署に係る事項については個別に具体的な相談を事前に受けたうえでないと承認は難しい。カムイワッカ部会で承認されただけでは、その後に詳細な確認を行なった際に何かしらの制限に掛かり手戻りの可能性もある。取り扱い事業については事前に相談をしていただきたい。

斜里町（塩）：各事業については事前に関係機関の皆様にご相談のうえ対応していく。引き

続き協力をお願い申し上げます。

斜里町（塩）：そのほか、皆様からご意見、質問はあるか。

ガイド協議会（岡崎）：カムイワッカ部会の取り扱い範囲を超える話題と理解しているが、世界遺産の登録当時から20年が経過し環境も変わった。会議体の乱立もあるが、全体としてのあり方を問い直した方がよい。あまりに会議が多すぎるうえに、実情に合わなくなっている部分も多いはずだ。全体を洗いなおして会議やそれぞれのセクションの検討を見直した方がよい。カムイワッカ部会単体ではないが、未だに20年前のものがそのまま継続されているということは違和感がある。

環境省（伊藤）：他の協議会等でも賛否を伺う必要があるので、色々な場で発言を頂けると有難い。

斜里町（塩）：座長としてではなく環境課長としてではあるが、会議乱立もあり遺産登録から20年の経過による変化もあり、時代に合わせた形態を常に模索する必要があると考えている。

斜里町（塩）：そのほか、皆様からご意見、質問はあるか。

一同：（質疑無し）

斜里町（塩）：異議が無いようなので、今年度のカムイワッカ部会について終了させていただく。本日、皆様から頂いた意見や確認頂いた事項については次回のエコツアー会議に掛けて決定とさせていただきたい。環境省へマイクをお返しする。

環境省（伊藤）：皆様の忌憚のないご意見に感謝申し上げます。以上で第23回カムイワッカ部会を閉会とする。

（閉会）